

東京大学大学院 人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告

2011年9月16日作成

スラヴ語スラヴ文学専門分野 修士2年 金沢友緒

**基本情報**

氏名： 金沢友緒

所属： 東京大学大学院 スラヴ語スラヴ文学専門分野 修士2年

派遣形態： 平成23年度 推奨プログラム

**派遣先プログラム**

Московский государственный университет имени М.В.Ломоносова;

Центр международного образования МГУ

**派遣先情報**

派遣先： ロシア モスクワ (Россия Москва)

派遣先機関： Центр международного образования МГУ

(ロモノーソフ記念モスクワ国立大学国際教育センター)

派遣先プログラム： Московский государственный университет имени М.В.Ломоносова

; Центр международного образования МГУ

(ロモノーソフ記念モスクワ国立大学国際教育センター 国際夏期語学講座)

**派遣期間**

出発日： 7月22日

帰国日： 8月22日

総日数： 32日

**研修スケジュール**

7月26日(火) 授業開始 (以降毎週火、木、金曜日にロシア語の研修)

7月29日(金) 授業後に Цмо で行われた экскурсия に参加。モスクワ市内の地下鉄構内に残る歴史的遺産を見学。

8月1日(月) Литература (文学) の講義を受講(以降毎週月曜日に開講される)

8月19日(金) 研修 修了

## 自己評価

### (1) 当初の計画の概要

派遣先のモスクワ国立大学の夏期語学研修プログラムに参加し、実践的な語学力の向上を目指す。それに加えて、今年度提出予定の修士論文の執筆のための資料調査を自主的に行う。具体的な作業としては、モスクワ大学附属図書館、ロシア国立図書館等の機関を活用し、日本で入手困難な資料の閲覧と収集を試みる。さらに現地の研究者から論文作成上の助言を得る機会を持つことを心がけたい。

### (2) 実際に達成された成果

語学研修プログラムではロシア語の会話力の向上に重心が置かれていたため、少人数編成のクラスでネイティブの生活に必要とされる語感を磨き、実用的なロシア語のスキルを学ぶことができた。週1日のセミナーでは、ロシア人の自国の文学に対する理解に触れ、さらに講義枠外の時間で担当教員から、修士論文の中心課題となるトゥルゲーネフ『ファウスト』の作品分析に関してアカデミック・アドバイスを受けることが出来た。

研究資料収集に関しては当初予定していたロシア国立図書館、およびモスクワ大学附属図書館の利用が実現し、A.K.トルストイ及びИ.С.トゥルゲーネフに関する研究文献等、修士論文完成のための有用な資料を閲覧、複写した。資料収集の場としては街中の本屋も大いに役立ってくれた。モスクワ市内には数カ所の大手書店に加え、人文系研究書を扱った古本屋も点在する。それらの本屋で、研究テーマに関わりのある知名度の低い作家コジマ・プルトコフ(Козьма Прутков)に関する雑誌等、日本では入手困難な書籍との出会う機会に恵まれた。このように想定していなかった資料を購入できたことは、大きな成果であり、楽しい経験でもあった

### (3) 感想及び今後の研究展望

今回の海外研修は1ヶ月という短期間ではあったが、現地において主体的にロシア語を学ぶ機会を与えられ、効率良くロシア語を摂取することができた。Цмоのプログラムは選択することが可能であり、私は時間的に余裕のある「ゆとりコース」を選択した。そのため空いた分の時間を、個人の研究調査に充てることができたのも、今回の研修プログラムで良かった点の1つである。

この夏モスクワで収集した資料文献を生かして、まずは今年中に精度の高い修士論文を完成することを目指したい。

なお、この語学研修を通して、学問的な議論を行う上でスピーキング能力が必須であることが実感された。今後国際的に研究活動を展開し、国外で円滑に研究調査を行うためにも、語学の実践力を磨く作業は論文執筆と並行して継続していきたい。

今回の派遣は、将来の本格的なロシア留学へつながる、すなわち準備期間としても貴重な経験であったと言えるだろう。修士論文を提出し、来年以降、改めてロシアで研究調査を行う機会を得たいと考えている。